

インフルエンザ

原因と症状

- ・インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気です。
- ・普通の風邪よりも急激に発症し、症状が重いのが特徴です。
- ・インフルエンザに感染すると、1～5日の潜伏期間の後、38℃以上の高熱や筋肉痛などの全身症状が現れます。
- ・健康な人であれば、その症状が3～7日間続いた後、治癒に向かいます。
- ・気管支炎や肺炎を併発しやすく、脳炎や心不全になる場合もあります。
- ・インフルエンザウイルスには強力な感染力があり、いったん流行すると、年齢や性別を問わず、多くの人に短期間で感染が広がります。
- ・日本では毎年11月～4月に流行が見られます。

診断

- ・ヒトに感染するインフルエンザウイルスには、A型、B型、C型の3つがあり、現在流行の中心となっているのはA型とB型です。
- ・A型は症状が重篤になる傾向があり、死に至ることもあります。
- ・また感染力が強いため、大流行(パンデミック)を起こしやすく、過去には香港かぜやスペインかぜなどの世界的な流行で多くの死者を出しました。
- ・B型は、A型よりも症状が比較的軽く、限られた地域で流行するケースが見られます。
- ・C型は鼻かぜ程度の軽い症状ですむことが多いウイルスです。
- ・診断には臨床症状と共に、インフルエンザウイルスを検出する迅速キットを用います。
- ・ウイルスに感染して時間が経っていない場合は検査結果が陽性にならない場合もあります。
- ・発熱などの症状が続く場合は48時間以内に再検査します

治療

- ・抗インフルエンザウイルス薬には、「タミフル」や「リレンザ」、「イナビル」などがあります。
- ・「タミフル」や「リレンザ」は1日2回内服、もしくは吸入し、5日間の治療期間が必要ですが、「イナビル」は気道に直接作用する吸入薬であり、単回投与で治療が完結します。
- ・「タミフル」に関して、因果関係は不明であるものの、10歳以上の未成年患者が服用後に異常行動を発現し、転落などの事故に至った例が報告されているため、この年代の患者には、原則として「タミフル」の使用が差し控えられています。
- ・一方「イナビル」は、5歳以上が適切に吸入できると示されていますが、吸入できるならば年齢制限はありません。
- ・ただし、これらの抗インフルエンザウイルス薬は発病後 48時間以内に服用しないと効果がありません。

急患診療センターでの対応

- ・急患診療センターでは休日明けまでの分しか処方できません。
- ・休み明けに通常の医療機関を必ず受診して診察を受けてください。
- ・他の人に感染する可能性があるため、解熱後も学校や仕事は発症後、5日間は休む必要があります。診断書や許可証は近くの医療機関でもらってください。

新潟市急患診療センター（電話025-246-1199）

<http://www.niigata-er.org>